



カケハシ・プロジェクト（米国） 日系米国人青少年招へい（JACL）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日米次世代間の相互理解と友好関係をさらに深めることを目的として、12月11日から12月17日まで、米国各地から日系米国人市民同盟（Japanese American Citizens League: JACL）が選出した日本にルーツを持つ青少年49名を招へいしました。参加者は東京都、神奈川県、広島県、沖縄県を訪問し、表敬訪問やホームステイ、文化体験、学校交流を通じて自らのルーツを探求し、日本の社会や歴史、文化への理解を深めました。また、その学びや気づきを日系米国人の立場からSNS等を通じて積極的に発信しました。

【参加者】日系米国人青少年（大学生・大学院生・社会人）47名及び引率者2名 合計49名
沖縄グループ：25名、広島グループ：24名

【訪問地】沖縄グループ：東京都、神奈川県、沖縄県
広島グループ：東京都、神奈川県、広島県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

12月4日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】 事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】 日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

12月11日（木曜日） 成田国際空港及び羽田空港より入国
【来日時オリエンテーション】

12月12日（金曜日）～12月15日（月曜日）午前

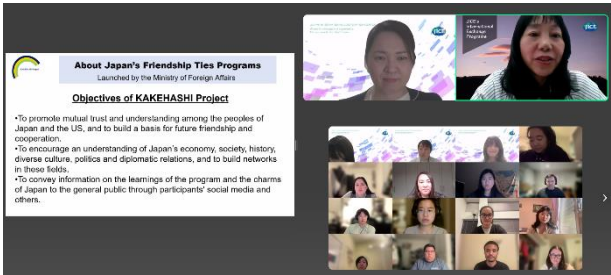
2つのグループに分かれ、沖縄グループは沖縄県、広島グループは広島県を訪問。地方プログラム終了後、12月15日に東京都へ移動

沖縄グループ 【学校交流】 国立 琉球大学
【表敬訪問】 宜野湾市 佐喜眞 淳 市長
【視察】 普天間飛行場
【対面式・ホームステイ・歓送会】 読谷村
【視察】 チビチリガマ・シムクガマ
【文化体験】 沖縄空手

広島グループ	【学校交流】 私立 比治山大学 【対面式・ホームステイ・歓送会】 広島市 【文化体験】 餅つき体験 【視察】 広島城・広島平和記念資料館
12 月 15 日（月曜日）	【視察】 お台場
12 月 16 日（火曜日）	【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成） 【視察】 海外移住資料館 【報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表 【表敬訪問】 尾上 定正 内閣総理大臣補佐官 【視察】 東郷神社・原宿
12 月 17 日（水曜日）	【表敬訪問】 大西 洋平 外務大臣政務官 成田国際空港及び羽田空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
12 月 4 日 【来日前オリエンテーション】	12 月 4 日 【来日前オリエンテーション】 グループ別自己紹介の様子

招へいプログラム

沖縄グループ（訪問地：沖縄県）

	
12 月 12 日 【学校交流】 国立大学法人琉球大学	12 月 12 日 【表敬訪問】 宜野湾市 佐喜眞 淳 市長



12月12日【視察】普天間飛行場



12月13日【ホームステイ】



12月13日【ホームステイ】



12月14日【ホストファミリー歓送会】



12月14日【視察】平和学習チビチリガマ



12月14日【文化体験】沖縄空手

広島グループ（訪問地：広島県）



12月12日【学校交流】比治山大学



12月12日【ホームステイ】



12月13日【ホームステイ】



12月13日【ホームステイ】



12月14日【ホストファミリー歓送会】



12月14日【文化体験】餅つき体験



12月14日【視察】広島城



12月14日【視察】広島平和記念資料館

共通プログラム（東京都）



12月16日【ワークショップ】



12月16日【視察】海外移住資料館

	
12月16日【視察】お台場	12月16日【報告会】
	
12月16日【報告会】集合写真	12月16日【表敬訪問】 尾上 定正 内閣総理大臣補佐官
	
12月16日【視察】東郷神社	12月17日【表敬訪問】 大西 洋平 外務大臣政務官

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人（沖縄グループ）

琉球大学の学生の皆さんとの交流では、共通の祖先やルーツについて非常に実りある意見交換を行うことができました。学生の皆さんは大変意欲的で熱意にあふれており、共に議論を深める時間は終始楽しく、有意義なものでした。限られた時間ではありましたが、互いに学び合えることがまだ数多くあると感じ、より長く交流できなかったことが惜しまれます。

また、教員及び学生の方々から直接お話を伺うことで、沖縄ならではの歴史や文化、生活に対する理解を深める貴重な機会となりました。文化や生活様式には相違点も見られましたが、一方で共通点も多く、それらを見いだしながら学生の皆さんとつながりを築けたことを大変うれしく思います。

さらに、学生の皆さんの英語によるコミュニケーション能力の高さにも感銘を受けました。技術や対人関係といった繊細なテーマについても的確に意見を述べており、その表現力の高さが印象的でした。加えて、食文化、祝祭、言語などに見られる沖縄文化と日本本土文化との違いについて学ぶことができた点も、非常に興味深い経験でした。

◆ **社会人（沖縄グループ）**

ホストファミリーのお宅で過ごした時間を通して、ウチナーンチュが大切にしてきた「結（ゆい）」の精神や、コミュニティを支え合う暮らし方を実感しました。また、戦後の沖縄が歩んできた歴史や、米国統治、日本復帰に至るまでの苦労についても学ぶことができました。ホストファミリーは私たちを温かく迎え入れてくださり、この経験は一生忘れられません。この度は温かく迎え入れ、食事や学びの時間を提供してくださり、本当にありがとうございました。人生をより良く生きるための大切なヒントをいただきました。

◆ **社会人（沖縄グループ）**

ガイドの方が深い知識と敬意をもって、この悲しい出来事について語ってくださったことに強く感銘を受けました。米国や日本の占領政策については知っていましたが、この出来事については初めて知りました。今回の経験は、沖縄の人々が経験してきた占領や暴力についての理解を深める貴重な機会となりました。歴史的な傷をその子孫の方から直接学べたことに大きな意味がありました。

◆ **大学院生（広島グループ）**

カケハシ・プログラムで最も印象的だったのは、湯来町でのホームステイと広島平和記念公園でした。ホストファミリーは信じられないほど親切で、気さくで、寛大で、私たちを温かく迎えてくれました！彼らの日常生活を知り、日本語を練習し、町とコミュニティの美しさを体験できました。彼らは私たち日系米国人の歴史にも強い関心と理解を示し、私たちの経験に深く共感してくれました。いつか両親を連れてこの町を訪れ、特に父にはこの地を体験させてあげたいと思っています。父の祖母は1910年頃に広島からハワイへ移住したからです。

広島平和記念資料館にも深く感銘を受けました。広島の人々が経験した苦難の深さを、これまで知りませんでした。「広島と沖縄は戦争の悲劇の地であると同時に、平和の象徴でもある」と報告会の講評で語られた言葉は実に美しく、記念資料館はまさにその理念をしっかりと伝えていると思います。それは、広島という都市と日本国民の回復力を映し出しているのです。広島が再建され、犠牲者の遺志が称えられ、米国人が「カケハシ・プログラム」を通じて広島について学ぶ機会を与えられるという事実は、平和の価値を世界の人々に伝えるために日本政府と国民が払った途方もない努力を物語っています。

◆ **社会人（広島グループ）**

学校交流では、現地の生徒たちと直接会って話ができ、彼らの活動の一部を垣間見ることができて大変良かったです。学校の様々な学科の人たちに温かく迎えられ、親切にもてなされたことは、私の心に深く刻まれる思い出となりました。

◆ **社会人（広島グループ）**

ホームステイ中、その家族の寛大さ、優しさ、心の広さ、そして創造力に圧倒されました。まるで長年知り合いだったかのように感じられ、これからも必ず連絡を取り合いたいと思います。ホストファミリーの家で共に食事をし、冗談を交わし、文化を交流した時間は、計り知れないほど深い印象を残しました。宮島へ行ったり、ご自宅の敷地内を散策したりするのも大好きでした。それは単なる観光や視察旅行以上のもので、私たちは一緒になって一生の思い出を共に作り上げました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

私たちの普段の生活にとっても興味を持たれていて、沢山の質問を受けました。

お互いに難しい文章は翻訳アプリを利用する事によって話がはずみ楽しかったです。

私の子ども（高校生）は、聞き取りはある程度できたようですが、話すことは難しかったようで、それでも短い単語での会話ができたことで、嬉しそうにしていました。

◆ ホストファミリー

廊下のぞうきんがけを楽しそうにやってくれたことや、温泉の打たせ湯がとても良かったと言ってくれたことが印象に残っています。ジェスチャーと翻訳アプリでのコミュニケーションでも楽しかったのですが、自分たちが英会話ができるともっと楽しめたのではないかと思ったので、英語を勉強したいと思いました。また、日系人の歴史の勉強もしたいと思います。またぜひ湯来町でホームステイの受け入れをしたいです。

◆ 文化体験講師

参加者の多くは、当初、空手に対して「身体動作を伴う武道・スポーツ」という印象を持っていたようでした。しかし、座学や実際の体験を通して、沖縄空手は単なる身体技法ではなく、沖縄が育んできた平和を希求する精神文化や、人の心が深く反映された文化であるという理解へと変化していったように感じます。

実際に参加者からも、「空手の見方が変わった」「精神性を感じた」といった感想を聞くことができ、とても嬉しく、印象深く感じています。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2025 年 12 月 13 日（Instagram） 社会人（沖縄グループ） 琉球大学の学生と会う素晴らしい機会でした！ 沖縄の人々の声に耳を傾け、新しい友達を作ることができて本当に嬉しかったです。	2025 年 12 月 13 日（Instagram） 社会人（沖縄グループ） 沖縄の手作り料理を堪能中！ 伝統的な沖縄料理と創作沖縄料理を学ぶのは本当に楽しいです（そしておいしい）！ クワッチーサビタン（ごちそうさま）



[KAKEHASHI PROJECT 2025]

Day 3: Today was a free day to be spent with our host families. My host family took us through a day of preparing and eating LOTS of food! Breakfast was followed by persimmon picking and eating. We learned about different types of persimmons (Amagaki 甘柿 and Shibugaki 渋柿), and ate Makigaki (巻き柿, dried and rolled persimmon) made by my host family mom through her volunteer work! Soft persimmon chilled by the cool air, picked and eaten right from the tree was the best! We also grilled shiitake mushrooms picked from some logs in the front yard, as well as satsuma-imo (サツマイモ Japanese sweet potato). From there we made tamagoyaki and makizushi (卵焼き egg omelette and 巻き寿司 rolled sushi), with udon for lunch. We made mikan (みかん Japanese clementine) and strawberry daifuku, took a break to try out a local onsen (public bathhouse), then came back for dinner! Ended the night under a kotatsu 炬燵, a Japanese-style table with blankets for cold nights.

Today, I also found out that my late grandfather's hometown is where I am currently staying. My host father put in some incredible detective work where I was able to visit the family grave and a relative's home. This was an especially fulfilling experience for me that let me reconnect with my roots in Japan. My heart (and stomach) are both filled with lots of gratitude.

2025 年 12 月 17 日 (Instagram)

大学生 (沖縄グループ)

地元アラスカでは、これほど大規模な日系米国人コミュニティに関わる機会がなかったため、他のカケハシ参加者が家族の歩みを共有してくれたり、私自身も少しだけ分かち合えたことに心から感謝しています。他のカケハシ参加者による家族史のプレゼンテーションが実施され、互いのルーツについて学ぶ機会を得ました。それを通じて、カケハシ・プロジェクトの仲間や琉球大学の新しくできた友人たちについて深く理解を深めることができました。

2025 年 12 月 13 日 (Facebook)

大学院生 (広島グループ)

【カケハシ・プロジェクト 2025】

3 日目：今日はホストファミリーと過ごす自由な一日でした。ホストファミリーと一緒に、山ほどの料理を準備して、食べて、まさに「食」の一日でした！朝食の後は柿狩りと実食。様々な種類の柿（甘柿と渋柿）について学び、ホストファミリーのお母さんがボランティア活動で作った巻き柿を食べました！涼しい空気で冷やされた柔らかい柿を、木から直接採って食べるのは最高でした！また、前庭の丸太から取った椎茸とサツマイモを焼きました。そこから卵焼きと巻き寿司を作り、昼食にはうどんを食べました。みかんといちご大福を作り、地元の温泉（公衆浴場）で休憩し、夕食に戻ってきました！寒い夜には、こたつで過ごしました。

今日、亡くなった祖父の故郷が、現在私が滞在している場所だと知りました。ホストのお父さんが素晴らしい調査をしてくれて、家族の墓と親戚の家を訪れることができました。これは私にとって特別に充実した経験となり、日本のルーツと再びつながることができました。心（そしてお腹）は感謝の気持ちでいっぱいです。



2025 年 12 月 12 日 (Instagram)
 社会人 (広島グループ)
 湯来町大字伏谷にて
 私たちのホストファミリーは、広島県の温泉の近くに旅館を経営しています。ここのいくつかの階段や宿屋は、江戸時代に建てられたものです。
 ここの空気はとてもきれいで、温泉も最高でした！

2025 年 12 月 13 日 (広島市佐伯区役所 公式 Instagram 佐伯区みつけ)
 昨日から日系米国人青少年の方が湯来町の一般家庭に滞在して日本の暮らしを体験しています。昨夜は大森神楽団のご厚意のもと神楽の体験をしました。迫力ある演舞「滝夜叉姫」を見学後、豪華な衣装や面で記念撮影。日本の伝統芸能に触れ地域との交流も深まりました。

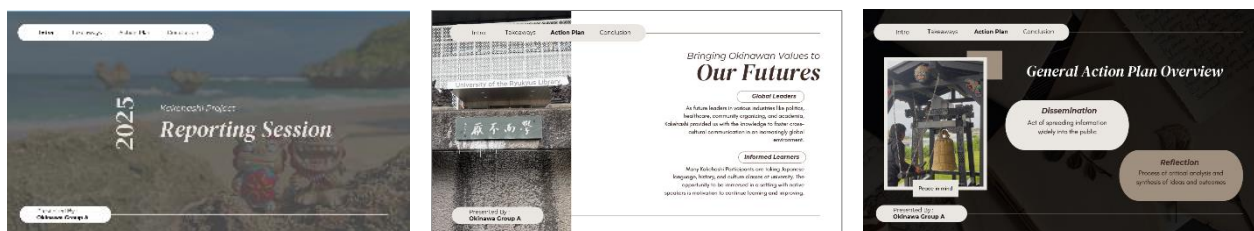


2025 年 12 月 19 日 (宜野湾市の Facebook)
 「対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」日系米国人青少年招へいプログラム参加者 宜野湾市来訪」

2025 年 12 月 20 日 (ちゅむら読谷の Instagram)
 今回、読谷村を訪れてくれた日系米国人訪問団の皆さまは、民泊交流を終えたあと、さらに一歩踏み込み、沖縄の歴史と文化を深く学ぶための平和学習を読谷村で行いました。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

沖縄グループ A



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び

プログラムを通して学んだ沖縄の価値観を私たちの未来へとつないでいきます。

不屈の精神

- ・ ホストファミリーは、沖縄の方言を継承することの重要性を強調しました。
- ・ 日本への復帰後も、沖縄は琉球王国の豊かな歴史と独自の文化を誇りとしていることを理解しました。
- ・ 宜野湾市長は、普天間基地の移設を訴えています。

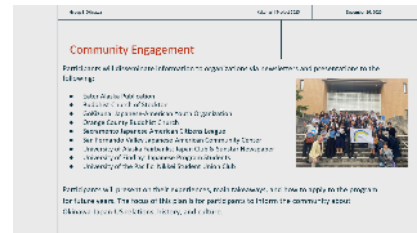
地域のつながり

- ・ 人的交流を重視（空手指導者とカケハシ参加者とのつながり）
- ・ 食・歴史・現地視察を通じた文化交流
- ・ 読谷村における地域コミュニティの構築

【アクション・プラン】

- ・ 日本大使館と連携し、日系米国人強制収容に関する講演イベントや、若手の日本人・日系米国人リーダーをつなぐネットワーキングイベントを企画します。
- ・ 地域の大学団体（NSU、JASS など）や若手日系プロフェッショナル組織に働きかけ、啓発ワークショップ・イベント・メディアを通じ、沖縄の文化と歴史を共有します。
- ・ 地元の JACL 支部、学生団体、プロフェッショナルネットワークに働きかけ、沖縄の歴史について語り、2025 年カケハシ参加者の経験を共有します。
- ・ 日系米国人向け報道機関（JACL パシフィック・シチズン、羅府新報）やその他のコミュニティ新聞に連絡し、私たちの体験に関するエッセイ、体験記、所感文、写真を掲載依頼します。
- ・ 沖縄の経験と歴史について語り、さらに 2025 年カケハシ参加者の 7 日間にわたる Vlog を投稿します。

沖縄グループ B



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び

戦時下で沖縄の人々が被った苦難、そして戦後も視覚的に強く存在する米軍基地の影響によって不安定性のリスクを常に意識せざるを得ない状況を踏まえると、沖縄の人々は、平和や地域社会、そして琉球の精神を決して当然のものとして受け止めてはいません。

むしろ、そうした歴史的経験を共有しているからこそ、ウチナーンチュとしてのアイデンティティに対する強い誇りが育まれています。これらの考え方は、沖縄の方言であるうちなーぐちからも示されています。

- ・ ゆいまーるの世界（助け合いの世界）
- ・ いちゃりばちょーでー（一度会えば皆兄弟）
- ・ チチヌハイヤ ウンマヌハイ（月が経つのは馬が走るようだ）
- ・ ヌチドゥタカラ（命こそ宝）

この学びは、沖縄に赴き、沖縄の人々の体験を直接聞き、実際にその場所を訪れ、彼らの日常生活を目にすることで初めて得られるものでした。

【アクション・プラン】

3 か月以内に、グループで沖縄・日本・米国間の関係、歴史、文化についてコミュニティに伝える為、以下の組織に対し、自分達の経験、主な学び、今後のカケハシ・プログラムへの応募方法に重点をおいて、ニュースレターやプレゼンテーションを通じて情報を発信します。

イーター・アラスカ出版

ストックトン仏教会

GoKizuna：日系米国人青年団体

オレンジ・カウンティ仏教会

サクラメント日系米国人市民連盟

サンフェルナンドバレー日系米国人コミュニティセンター

アラスカ大学フェアバンクス校：日本クラブ&サンスター新聞部

フィンレイ大学：日本語プログラム学生

パシフィック大学：日系学生連合クラブ

広島グループ C



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び

おもてなしと気さくさ

言葉の壁があっても、出会った人々は皆、私たちが心から気遣い、私たちのことを知ろうとしてくれました。家庭料理や一緒に作る料理、自ら収穫した食材を楽しみながら食べました。

友人との交流や地域社会との関わりに連れて行ってくれました。柔軟なスケジュールと、地域散策を共に楽しもうとする気持ちも素晴らしいものでした。私のホストファミリーは空港まで一時間以上かけて見送りに来てくれました。

◆ 個人的展望

カケハシ・プログラムの体験を通して、日本での時間や日本人、日系米国人との交流を含むいくつかのアイデアが浮かび上がりました。

家族による結びつき、歴史によるつながり、社会における回復力、土地と生命への感謝

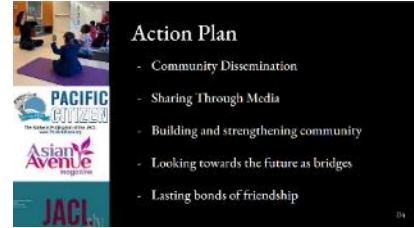
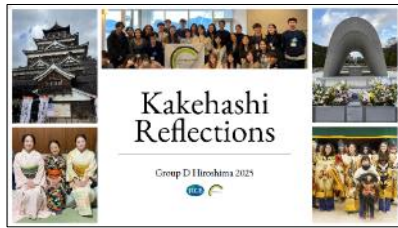
【アクション・プラン】

今後 3 か月以内に、地域コミュニティ、この旅で出会った友人たち、そしてより広範な日系米国人コミュニティとつながりを深めるため、以下の活動を実施します。

オンラインやソーシャルメディア（Instagram、LinkedIn）を活用し、執筆や出版、芸術活動に取り組むとともに、プレゼンテーションや情報発信を行います。また、大学での友人との交流や、日系米国人団体や関連出版物（パシフィック・シチズン、ディスカバーニッケイ、ニチベイ財団、ハワイ日米協会、ホノルルビート）を通じて、コミュニティとの関係性を維持し、文化理解を共有していきます。さらに、地域の日本人街での交流を通じて、日本語の習得にも力を入れていきたいと考えています。

これらの取り組みを通じて、経験と文化への理解を共有し、関係性維持やコミュニティづくりに貢献することを目指します。

広島グループ D



◆ 訪日中の学び

日本における発見

- ・ 社会の枠組みに組み込まれたおもてなしの心
- ・ 人間関係への積極的関与
- ・ 固定観念や先入観の脱却
- ・ 障壁の克服
- ・ 好奇心と私たちが共有した経験

◆ 個人的展望

ホームステイ体験を通じて日本人・日系米国人文化の架け橋となる。

多様な日系米国人背景を持つグループ内での交流によって深く考察して、生涯の友となり、そして将来の計画を立てます。

【アクション・プラン】

2025 年 12 月から 2026 年 3 月にかけて、グループ内のメンバー 3 名が、全国・地域・個人レベルの日系米国人（JA）及びアジア系米国人（AA）向けのデジタル・印刷媒体に記事を執筆します。

対象は、さまざまな分野や職業上のネットワーク・コミュニティに属する日系米国人市民連盟（JACL）の会員を中心とします。オンライン上では無期限で公開するのでいつでも閲覧できるようにします。

執筆活動は、米国のシカゴ（イリノイ州）、デンバー（コロラド州）、ボストン（マサチューセッツ州）を拠点に行い、カケハシ・プロジェクトの所感や、日米の架け橋に関する展望を語り合うことを目的とします。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）